

技術者として胸張れるように



取得した資格：技術士（建設部門：道路）
資格取得年度：令和2年度

ふじ い こう じ
藤 井 浩 司*

受験の動機・経緯

受験の動機は技術力の向上です。従前から、自身の経験不足について危機感を抱くことが多く、少しでも早く技術者として胸張れるよう技術力を向上したいと考えていました。

そんな折、県庁内でのOJTにて先輩技術士の講習を受け、技術士資格を取得することは技術力の向上につながると思い、同期職員とともに受験することを決意しました。しかしながら決意したのはいいものの、恥ずかしいことに、受験を決意した当時は技術士資格について熟知していたわけではなく、技術士資格取得＝技術力向上くらいに考えていました。また、勉強を始めてしばらくしてからようやく技術士資格がどういうものでどういうことを受験者に求めているのか理解したので、今思えばいくらか無謀な挑戦であったと思います。さらに、業務経歴を先輩技術士に添削していただいた際は真っ赤に直されたこともあり、今もですが当時どれだけ未熟であったか、業務以外のところで身に染みてわかり、いい経験になりました。

今回、私が技術士試験にて経験したことや試験を通じて感じたことを紹介させていただきますが、みなさまの技術士に対する興味や受験のきっかけにつながれば幸いです。なお、細かい試験対策のことは今回書ききれないと思いますが、ご容赦ください。

筆記試験（2次試験）に向けての準備

受験に先立ち、受験することを家族に快く思われなければ受験資格はないと思い、家事・育児を積極的にしながら勉強に取り組むようにしました。

私が実施した筆記試験に向けての準備としては、とにかく書いて覚えることです。業務上ペンを走らせる機会が少なく、文字を書く力が学生時代より格段に落ちていることを痛感したこともあり、キーワードの整理や論文の作成練習は記憶する意味も込めて基本的には手書きにて行いました。また、具体的なキーワード整理や想定論文テーマについては、日経コンストラクションや国土交通省HPの最近の施策、国土交通白書、道路構造令などを用いて収集し準備しました。

日々の勉強時間を確保することは難しいですが、まとまった時間が作ればその時間で論文作成を行い、通勤での移動時間など隙間時間があればそこで最近の国の施策等をチェックしました。

特に、必須科目Ⅰや選択科目Ⅲについては小論文を書ききる必要がありますが、受験勉強開始時からすらすら書くことは困難で、あらかじめ想定したテーマにて、まずは骨子の作成（現状や背景→課題（複数）→解決策（複数）→解決策を実行するに当たり生じるリスク）を行い、作成した骨子にキーワードや技術者倫理を盛り込むようにしました。

*福井県 土木部 道路建設課 主査

口頭試験に向けての準備

余談になりますが、まず最初に考えたことは余裕をもって挑むために試験会場の近くに前泊するか、コロナ禍を考慮して日帰りで向かうかでしたが、家族と相談し当日早めに出発し、日帰りで向かうことにしました。

口頭試験に向けての準備としては、受験申込み時に提出する「実務経験証明書（業務経歴及び業務内容の詳細）」の作成からスタートです。

口頭試験にて業務経歴とその内容について試問されるため、口頭試験をイメージして作成する必要があります。具体的には、業務における自身の立場・役割、課題、課題に向けた技術的な解決策や成果などについて、コミュニケーション、リーダーシップ、評価やマネジメントといった技術士としての適格性を口頭試験にて説明できるようイメージして作成するとよいと思います。

また、技術士倫理綱領や技術士の3義務2責務について把握していることも求められます。

私は筆記試験の合格から口頭試験までの間に、想定質問を数十問作成し、実際に声に出して回答する練習を合間を見て行いました。

注意すべき点として、想定質問と試験官の問いが一致するという事はほぼなく、試験官が求めているであろう回答を、その場で端的に的確に答えられるかどうかという点であると思います。当たり前のことと思われるかもしれませんが、口頭試験の場において、試験官の問いかけを最後まで聞き、それに対して的確な回答をする必要があります。私の経験ですが、試験官の試問に対する外的な回答をし、再度同じ試問をされたことが試験中1、2回ありました。同じ試問を繰り返させてしまうことで、与えられた試問時間中に合格点にたどり着くことが困難になるため、その点は注意が必要です。

受験を通して学んだこと

技術士試験は例年4月に申し込み、翌年1月頃に口頭試験が行われるため、非常に長丁場である一方で、受験期間中にコツコツ知識を積み上げていきながら最新の話題も意識する必要があるため、その意識が受験を通して身に付くのではないかと思います。

また、インプットした知識をいかに正しく論理的に、与えられた文字数（制約）でアウトプットすることが重要で、言うは易しですが実際にその通りに行うことは非常に難しいということも受験を通して学びました。ただ、これらは試験勉強のみではなく、日々の業務にも通じると思います。

結びに

当時は新型コロナウイルス感染症が流行し始めた時期であり、試験が一度延期されたことも含め、受験してよいのか、特に県境をまたぐ移動をしてよいのか、家族ともども受験前に不安になることがしばしばありましたが、会場の徹底された感染対策により、安心して受験することができました。

最後に、受験にあたって多くのアドバイスや資料をいただいた先輩技術士の方に感謝を申し上げますとともに、今後受験を検討される方に適切なアドバイスができるよう、引き続き継続研鑽に努めていきたいと思います。

【著者紹介】 藤井 浩司（ふじい こうじ）

平成23年福井県入庁（土木（総合）職）。福井土木事務所道路第一課等を経て現職。現在は、道路建設課建設・改良グループとして、道路の整備に従事。